

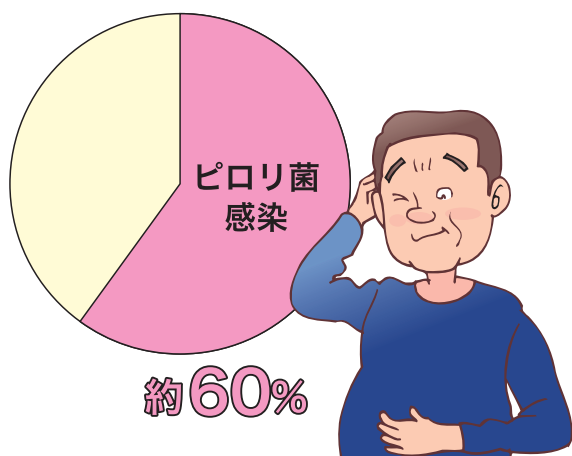
# ピロリ菌について知ろう！

## ピロリ菌とは！？

ピロリ菌は、胃の粘膜に住み着いている細菌で、正式名称はヘリコバクター・ピロリといいます。

ピロリ菌が、強酸性下の胃の中で生育できるのは、胃の中にある尿素をアンモニアと二酸化炭素に分解し、アンモニアで酸を中和することにより、自分の身の周りの酸を和らげているからです。

ピロリ菌の感染は、胃潰瘍や胃がんの発症リスクを高めます。



## 中高年は感染率がかなり高い！

現在、日本人の約60%がピロリ菌に感染していると考えられています。その多くを占めているのが、上下水道が整備されていなかった昭和30年以前に生まれた年代です。

感染するのは幼少時で、成人ではほとんど感染しないので、今後、日本でも感染者が減ると期待されています。

ただし、5歳未満の乳幼児に、ピロリ菌に感染している大人から食べ物を口移しすることにより感染するケースがあります。

## ピロリ菌に感染し続けるとどうなる！？

ピロリ菌は、胃潰瘍・胃がんの最大の原因といわれていますが、ピロリ菌に感染したからといって、潰瘍や胃癌が必ず発症するわけではありません。

しかし、感染したほとんどの人に胃炎がおこります。除菌しない限り、ピロリ菌は胃の中に住み続け慢性的炎症が続き、胃の粘膜を防御する力が弱まります。

そのため、ピロリ菌に感染している状態に、ストレスや塩分の多い食事、喫煙、発がん物質などの攻撃を受けると胃がんのリスクが高まります。

